

創刊の辞

熊本県立大学大学院文学研究科長 半藤英明

熊本県立大学は、昭和二十二年（一九四七年）に開校した熊本女子専門学校から六十年を数える今日、三学部三研究科を擁する総合大学として、地域実学主義を掲げ、有為な人材の養成を目指し、日々教育研究を積み重ねている。六十一年目を迎えた本年度、大学院文学研究科は、日本語日本文学専攻に博士後期課程を開設、同修士課程は博士前期課程となり、ここに五カ年の博士課程が整備された。本年度は、文学研究科発足からは十五年目の年に当たる。

大学院は、高度な専門的研究活動を推進する機関である。また一方では、高い識見を備えた専門的職業人養成の場でもある。研究者は、教育者としての自覚をもって、崇高な任務に励み、被教育者たる大学院生は、自己の叡智を磨き、真贋を見極めるための洞察力を獲得して、自立への道を歩む。溢れんばかりの活力が大学院には求められる。これからの熊本県立大学大学院を活かすものは、いずれ「人々」でしかない。智の拠点は、人間たちのせめぎあいの中でこそ生まれる。今、このことを確認しておきたい。

三学部の中、最長の歴史を誇る文学部は、現在、日本語日本文学科と英語英米文学科とから成る。両学科の教育研究は多岐にわたり、近年は地域・社会への貢献活動にも力を入れている。それらは大学院でも継承される必要がある。全てが総じて本学の知的資源となるからである。この『熊本県立大学大学院文学研究科論集』が、その知的資源を代表するものとなり、広範囲に注目される存在へと育つことを願う。

近い将来、文学研究科英語英米文学専攻もまた、修士課程から博士課程へと課程変更を図りたい。そのことをもって、この「創刊の辞」は、完結する。